

No. 105 2020. 12. 1

〒421-0522
 静岡県牧之原市相良 240-1
 (児童発達支援・放課後等
 デイサービス)
 つくしの家
 (生活介護事業所)
 つくしホーム
 ☎ 0548-52-2225
 事務局 52-0825
 F A X 52-1156
 e-mail:tsukushihome@
 aioros.ocn.ne.jp

つくしの家だより

HP アドレス <http://ichiyokai.sakura.ne.jp/>

この場所です

栗林均



早いもので、今年もあと一ヶ月を残すのみとなりました。新型コロナウイルスの感染が始まって間もなく一年が経とうとしています。この感染がここまで長く、また全世界にまで広がることは、そしてこれまで当たり前のように行われていたいくつもの行事や外出や人が集まる会議や集会等が中止となったり、マスクの着用や日々の消毒など、昨今の今頃にはまだ想像もできなかったような日常が続いています。「新しい生活様式」という言葉も生まれ、人と人との距離が保たれる中、子ども達や利用者の方々と私たちとの距離はどうしても密にならざるを得ませんし、その中で子ども達の日々の小さな育ちを願う思いも変わらず持ち続けながら日々を送っていききたいと思えます。

「ああ、この風、覚えています。以前、見学に見えた方がおっしゃい



ました。その方が小学生の頃に、つくしに交流で来たことがあったとのことでした。つくしの玄関からホールに入った左側の壁の上に、大きな風が飾ってあります。金太郎と鯉(きんこい)の絵が描かれ、つくしの家の名前の入った「相良風」です。この相良では、初の男の子の誕生を祝って、端午の節句に子どもたちの名前を入れた風を上げる風習がありました。また、糸にガラスの粉をまぶし(ビードロ糸)、お互いの糸をこすり合わせて切り、相手の風を落とす風合戦も五月の連休におこなわれていました。以前は切れて飛んできた風がいくつもつくしの屋根や松の枝にかかり、若い衆が風を探して取りに来たこともありました。江戸時代中期の頃から始まった伝統の行事のことです。つくしのホールの風は、いつ頃から飾られたものでしょうか。私が勤め始めた頃にはもうありません。この園舎が建てられた頃(昭和四十九年度)に飾られたのかも知れません。先日、風の絵の一部が床にひらひらと落ちてきました。紙を触ってみると、軽く触っただけでポロポロと破れてしまいました。年月とともに、いなくなってしまうのでしよう。金太郎の耳の部分が取れてしまいました。それでもずつとここで子ども達を見守ってくれています。

「ああ、この風、覚えています。以前、見学に見えた方がおっしゃい

ちようどその頃、一通のお手紙が届きました。つくしを長い間ずつと応援して下さいたい他県にお住まいの方の娘さんからのお手紙でした。つくしが出来た当時は、国の施策として入所型の施設を作ろうとしていた時代で、つくしのような子ども達が家から通う形の施設はまだどこにもなく、当然制度も補助もなかった時代でした。そんな中、つくしでは、このような園は必要だという思いで「つくしの家後援会」という組織を作り、ここを理解して応援して下さいたい皆様からのお心をいただきながら運営を続けてきました。後援会の皆様には、毎年六月と十二月にこの「つくしの家だより」を送らせていたただき近況をお伝えしています。一番最初の「特別号」から始まり、今回が105号となりました。お手紙を紹介させていただきます。

『私は、〇〇の三女で△△と申します。母は、今年二月八日、百二才で亡くなりました。長い間、母とお付き合いくださいましてありがとうございます。お礼申し上げます。母が百才の時にお知らせいたします。母が百才の時には、つくしの家をご利用なさっている方のお写真と、お祝いのメッセージをいただき本当にありがとうございます。母は、とても喜んでおりました。つくしの家から届くお便りをいつも楽しみにしておりました。つくしの家様と母のお付き合いがどのようなに始まったのかは、よくわからないのですが、母の両親(私の祖父)が静岡県浜松の出身なの

で、そのささやかな恩返しのもつりと言っていたのを覚えています。母の自宅（私の実家）は、埼玉県北葛飾郡ですが、十五年程前、母が当方に滞在中、軽い脳梗塞で入院したことをきっかけに私も三女夫婦と同居するようになりました。おかげ様で後遺症はほとんど無く、その当時は、まだまだ元気でした。私も夫婦は、介護保険開始当初から、老人関係の業務に携わっており、忙しい時には、母にずい分助けてもらいました。また、ドライブが好きで、忙しい合間をぬって、箱根など、よく三人でドライブに出かけたものです。隣り近所の買い物でも、「私も行く」と言っては一緒に出かけたものです。これは百才を過ぎてても変わりがありませんでした。



母は、また音楽が大好きで、唱歌や抒情歌が馴染みの音楽でしたが、私の主人が好きなクラシックやロックもよく主人に付き合っ一緒に耳を傾けていました。音楽好きのおかげでデイサービスも楽しめたようです。年と共に物忘れもすずみ、自分で出来ることが少しずつ減って、車椅子のお世話になる機会も増えましたが、最後まで普通に会話し、生活

できたことはとてもありがたいことでした。最後は誤嚥性肺炎でしたが、往診医や訪問看護師さんに助けていただきながら、入院することもなく、苦しむことなく、自宅で静かに、そして元気に？天国へ旅立っていきました。

大正、昭和、平成と生き、関東大震災や第二次大戦後、満州から引き揚げてきたこと、戦後の子どももの病気など苦労もありましたが、いつもそして晩年まで明るく楽天的な母だったと思います。四十九日の納骨後、実家に行き、父の位牌の横に母の位牌をおさめ、亡長男の家族に後を託してお別れをさせていただきました。母を見送り、さびしくなりましたが、晩年の母と共に過ごせたことは感謝です。母のことをお知らせしたいと思い、長々と書いてしまいました。最後になりましたが、母と長い間お付き合い合いただきましたこと、心より感謝申し上げます。つくしの家をご利用なさっているお一人お一人に、また職員の方々、関係者の方々に神様の恵みがありますように、心よりお祈り申し上げます。感謝』…、このようなお手紙をいただきました。

一年に二回ずつお便りを送らせていただき、その度に応援をいただきました。ご住所とお名前は存じていましたが、一度もお会いすることもなく、そしてここに来られたこともきつとなく、ホールの風が飾られた頃からずっとつくしを応援し支え続けて下さった方でした。つくしの子ども達とホームのみんなで撮った写真

をカードにして送らせていただきました。心より感謝し、そしてご冥福をお祈り申し上げます。現在は、国の制度にのって運営をしているつくしです。皆様からお寄せいただいているお心は、将来のつくしのために大切に使用させていただきたいと思っております。



子ども達は、就学や就園などで卒園し、そしてまた新しい子ども達が入園してきます。一年ごとにここで過ごす子ども達の顔も変わって行きます。でも、ここに集う一人ひとりの小さな子ども達は、一日一日の中で、新しい経験をし、心の中に『人の味わい』をいっぱい感じながら心があたたかく育って行ってくれたらいいなあと願っています。泣いたり笑ったり…、子ども達と私達のそんな一日一日を、たくさんの方がどこかで応援して下さいることを忘れずに、この場所で子ども達と一緒に小さな歩みをこれからも元気に重ねていけたらと思っています。谷川俊太郎さんの詩を載せさせていただきます。

ここ

どっかに行こうと私が言う。
どっか行こうかとあなたが言う
ここもいいなと私が言う

ここでもいいねとあなたが言う
言ってるうちに日が暮れて
ここがどこかになっていく

お迎えまでのホールに出てみました。身体を弾ませながらお友達と追いかけてっこしている子、机を囲んでお絵かきに夢中な顔も見えます。窓側のおままごとコーナーでは、おいしそうなお料理もできたようです。何があつたのでしょうか、ホールの奥の方からかわいい泣き声も聞こえています。これまでの年月たくさんの子ども達が過ごしてきたこのホールの中で、子ども達は「今」という時間をただ精いっぱい楽しんでるようにも見えません。そして、きつとこんな時間の中で一人ひとりの心がゆっくりゆっくりふくらんでいるんだらうな…。四十年以上もホールの壁の上から私達の小さな一日一日の歩みを見守ってくれていた相良風、少し破れてしまった風を見上げながらふとそんなことを思いました。



夕暮れの街に色とりどりのイルミネーションが灯りはじめてきました。コロナ禍の中、今年もあたたかなクリスマスが迎えられますように…。(二羊会理事長・つくしの家園長)

大切な仲間、年月

増田 隆

雪をまとった富士山、澄んだ空気に眩しい青が映える空、その色を映す白波が立つ駿河湾の海原、この季節には恒例の風景ですが、今年はなぜか違う景色に見えてきます。新型コロナウイルス感染症の為、外出や運動会、レクレーションなどの行事が取りやめになり、ボランティアさん達や小・中学校との交流会も中止を余儀なくされてしまいました。幸い、つくしでは罹患された方はいませんが、再び感染が拡大しつつあります。対岸の火事と油断せず、今できる予防や対策を心掛けて過ごしてゆきたいと思えます。

今から十七年前の十月につくしホームに通い始めた石山智子さんが、今年七月、市外の障害者支援施設に入所しました。音楽、絵画、パズル：いろんな創作活動に興味・関心を持ち、考えるだけでなく実行する方です。ピアノ教室にも通い、市内で行われる「ピアノマラソン」にも出場しました。筋力トレーニングにも力を入れ、手すりを使って立つ練習や、車輪のついた歩行器を使い、何度も何度も真剣にホール内を往復していました。誰にでも「ありがとう

という言葉掛け、いつも感謝の気持ちを持っていました。「つくしホームが大好き」と何度も言ってくれました。あなたに教えていただいた、努力を惜しまず実行する姿と、感謝を惜しまない心を忘れず、みんなで日々歩んでゆきます。新しい生活が実りあるものとなる事を心から願います。

七夕間近の雨が降り続くある日、古川照美さんのご逝去の報が届きました。つくしの家創設時の最初の園児の一人でもあり、ずっと通い続けてくれた方です。口にくわえたペンや割りばしを使ってタイピングしたり、本を読んだり、文字を書いたり、わずかに動く左手で器用にモップをかけていました。暑い日も寒い日も、電動車いすに乗ってみんなで散歩に出かけ、七夕には、毎回「今年も阿佐ヶ谷教会の皆さんとプールに入れますように」と願いを書いていました。動物園やデパート、公園、いろんな場所に出掛けた日々、運動会のアトラクション（演奏）では、年中選曲を意識して、笛を鳴らすタイミングを自分で考え、心待ちにしておきました。毎年楽しみにしていたおとも様の招待食事で、きれいなドレス姿の花嫁になり、おばあちゃんと一緒に写真に納まったあの時の笑顔が、今でもまぶたに焼き付いてい

ます。今は亡きおばあちゃんは、つくしの家創立時、地域の方々の家を一軒一軒回り、理解を訴えていたと聞きました。

照美さんは以前、かみしめるようにこんなことを話してくれました。「私は小さな頃からつくしの家に通い、つくしホームで過ごしています。今思うことは、つくしに通ってよかったなということ。家の中にずっといれば、テレビやラジオだけの生活でしたが、つくしの家では、出来ることはどんな小さなことでもやってみるといいよ、と言ってもらい、できない事よりもどうしたら出来るのかということを考えてくれました。そのおかげでたくさん職員と関わり、年齢なりのマナーや社会性を知ることが出来ました。これまで生きてきた中で、つくしに通い続けて本当に良かったなと思っています。障害がある人みんなに言いたいです。たとえ障害があっても、家にこもらずに通ってほしいと思います。インターネットで何でも知る事が出来ますが、実際に外に出て、空気や気温、匂いや音を感じてみると、全然違った世界が広がります。私自身若いころから顎だけでレバーを動かして電動車いすを操作して、休みの日には街に出かけて、買い物や外食を楽しんでいます。恥ずかしがらないで、どんな外に出てみてください。きっと

世界が広がりますよ」



最後までつくしホームに通いたい、そう言ってくれたあなたの思いや、つくしの家創立当初から五十年以上もの間支え続けてくださったご家族に、心から感謝します。朝「行ってきます」と出掛けて、「ただいま」と住まいに戻る、そんな場所としてつくしがあり、設立に携わった職員、保護者の方々の思いは、とても貴重なものです。長い年月をかけて築かれた証を守り、地域の中で特別な存在ではない場所であること、ひとりひとりが大切にされ、守られる社会である事を忘れないようにしなければならぬと切に思います。

(つくしホーム 施設長)



『新たなスタート』

石本優子

一歳半を過ぎた頃から成長が遅いなど感じていましたが、健康で元気に育っているのが特に心配はしていませんでした。でも名前を呼んでも振り向かない、声かけしても反応が乏しく、どこを見ているのかわからない。出先では自分が思っていた場所じやなきや駐車場に着くなり大暴れ大泣きし、車から降りてもしやがみ込んで歩きません。公園でも人の認識をしていないので自分勝手でお友達を押しやり空気も読めないのが楽しく遊ぶ事はできませんでした。療育を知り、つくしの家と出会い

「ここでお世話になりたい」と思いました。温かく成長を見守り愛情を沢山注いでもらったお陰で、色々な表情が見られるようになり、歌やリトミック、絵本にも興味を持ち、ワクワクする気持ち、できた事を褒めてもらう喜びを知りました。

コロナの影響で遅れて始まった学校生活は自粛期間も長く、人との関りが減り不安定な日々が続きましたが、夏休み明けから急な成長をしています。様々な授業に取り組めるようになり、お友達にあまり興味がなく、一人でいる事が多かったけど、休み時間には追いかけて遊んでくれるようです。見通しが持てるようになり、切り替えも上手になってきました。放課後等デイサービス



でもお友達に、プラレールを組み立てて、と作ってもらったり、クッキングに興味を持ち積極的に参加しています。包丁を使って野菜を切ったり炒めている所を写真や動画で見ると、皆と一緒に過ごしている姿に驚きます。簡単なお手伝いもしてくれず。

進一朗は重度の自閉症です。発語はありませんが、心配していた言葉や物の理解も伸びてきていて声掛けだけでも動いてくれる事が増えました。自分の思いを言葉のような声にして伝えようとすることもあります。朝「顔を洗ってね」と言うと、洗面所へ行き、ビチョビチョになって洗っている姿を見ると「凄いな、可愛いな」と胸が熱くなります。自分の事は自分でできるように頑張ってほしいです。いつか進一朗と会話をしてみたい、どんな声で「パパ、ママ」って呼んでくれるのかな？ふと思いつき事があります。「言葉が出ない」と身内に話した事があり「待つしかないよ」と…。この言葉に私は救われました。

穏やかで優しく真面目で笑顔がとっても可愛いです。私達はそんな進一朗を大切に、未来へ向かってサポートしていきたいと思えます。

(つくしの家卒園児保護者)

「姉と私とつくしホーム」

横山之利

この原稿を依頼された時、私は文才なくお断りしたかったのですが、やむなく引き受けた次第であります。文中で不適切な文字、文章がありましたら目をつぶって読まなかったことにして下さい。

私の姉は横山世喜子といい、現在七十三歳、私も六十七歳の姉弟での二人暮らしであります。姉世喜子は幼児の頃に知的障害を発症し、自分一人では生きていきません。父が三十三年前、母は十一年前に他界、私は両親亡き後何の躊躇なく当たり前事で姉の面倒を見始め、介護に至っております。現在の一番の心配は、自分が先に死ねない、次の世代に残していけないという事です。

つくしホームとのかかわりは母の病状悪化に伴う入院、介護他様々の事を考え、姉を預かってくれる所はないかと考えている時期につくしホームを紹介され二〇〇九年一月十五日入所した事です。初めは今まで一度も家から出た事のない姉が他の場所に行き、他人と上手につき合えるか心配でしたが、そんな心配もなく即なじんでしまいました。これはホームの先生方が、自分を大切にしてくれりと理解、利用者さん達も自分を妨げない人達で安心して一緒にいられると信じられた事であり、

先生方もそれに応えてくれた事だと今でも感謝しております。ホームでは、毎日々、毎月々、毎年々利用者の行動、行事を検討実行してくださっております。利用者は十九歳から姉の七十三歳、この年齢差、また姉のような知的障害者、自身で動く事の出来ない身体の障害者、元気のよすぎると人等様々な人達に様々に対応してくれています。私にはとてもできず物凄いな事をなさっていたら、いと、この執筆を機により改めて考え感謝の気持ちを強く抱きました。またこんな時もホームの有り難さを再認識しました。それはある所より姉が高齢となり介護保険による老人ホームでのデイサービス利用を言われましたが、ホームの先生方の接し方や活動内容が姉の生活向上に繋がっている事を強く訴え理解してもらい、ホームにご迷惑をかけることを心苦しく考えながらも無理押しホームに留まらせて頂いた時です。ホームを利用させていただいた事により姉は自分で考える事、自分で出来る事を家で少しですが行動しています。少し生意気になってきましたが、ホームの先生方には感謝しかありません。この年でも健康に暮らしているのが何よりの証と考えています。姉にとってホームの素敵な先生方、利用者達、保護者の方々に会えているのが人生最大の幸せで大満足な時間を過ごしていると感じています。

(つくしホーム保護者)

どんな時も子ども達の
笑顔を思い浮かべて…
服部智美

年明けからコロナウイルスが流行し、今もなお拡大しています。マスク、アルコール消毒が生活の一部となり、なるべく密にならないようにと考えて行動する日々。マスクで顔の表情が半分見えなくなり、人とのやりとりも短縮。こんなにも生活様式が変わってしまった、私たちの生活圏が狭まった感じでした。

そんな中、つくしは休園することなく、みんなを気を付けながら毎日をごしてきました。が、毎年当たり前のように行われていた行事が、いくつも中止、縮小。夏の終わりの一大イベントである「おたのしみ会」も親子で集まるのは難しいと判断…。でも子ども達だけでも夏の思い出としてきたら…、とみんなで話し合っただけ、形を変えての「おたのしみ会」の計画がスタートしました。例年通りとはいかないため、全一から案を考え、何度も相談。「人手が足りないよね」「今の時期、これはやれるの?」と悩んでいた事も、「こんなやり方にしたら子ども達もきつくないかな」と職員同士の会話も盛り上がり準備も進んでいきます。そして当日! 何度も練習してきた盆踊りからスタート。ヨーヨー釣り、大型くじ引き、動物や恐竜に向かっての手作り射的、そして初めてのバイキング「つくし食堂」も開店です。お皿を持って進んで行くと順々に盛り付けられて、子ども達の表情も楽しそうです。日頃来て下さっているボランティアさん達も今日はお店屋さんです。あつという間に時間は経ち、おたのしみ会終了。「どうだったかな?」「予定通りできたかな」と思っているのと「たのしかったね」「おいしかった」と、子ども達の声と笑顔がホールのあちこちから聞こえてきました。



コロナ禍の中、我慢しなければならぬ事、新しく受け入れていかなくてはいけない事もあります。でも、子ども達の見せてくれる表情や姿を

想像しながらみんなで考えて計画して準備したこと。そして子ども達と一緒にワクワクドキドキしながら楽しめるひとときに出会えたこと、何だかみんなの心が温かくひとつになったように思えました。

また、今年度はつくしではこれまでやってこなかった初めての行事も取り入れてみました。消防署と市の女性消防隊の皆さんによる「花火教室」、交通安全協会交通指導員の皆さんに来ていただいた「交通安全教室」、市内のボランティアグループさんによる「おはなし会」、歯科衛生士さんによる「虫歯予防のお話とブラッシング指導」など盛りだくさんです。地域の皆様のお力を借りて子ども達もいろいろな新しい経験ができることが、とてもありがたく感謝の気持ちでいっぱいです。



どんな時も子ども達の笑顔を思い浮かべながら、みんなで元気に歩いて行けたらいいなと思っていました。

(つくしの家 保育士)

ご挨拶

早いもので、今年もあと一ヶ月を残すのみとなりました。例年より遅い梅雨が明けると猛暑の夏がやってきました。新型コロナウイルスの感染もいまだ収束の兆しも見えませんが、状況ですが、朝夕の冷え込みとともに、つくしの前に広がる駿河湾をはさんで浮かぶ富士山には、うつつらと雪の帽子がかかりはじめ、牧之原台地に広がるお茶畑では白いお茶の花が今年も咲き始めました。それでも季節は巡ってきています。

つくしの家の子も達、つくしホームの利用者さん達も、心の中の思いを真つすぐに伝えながら、これまで通り、一日一日の小さな歩みを大切に積み重ねているように思います。「新しい生活様式」の中で、変わっていくことと、変わらないものもあることを忘れずに歩んで行きたいと思えます。寒くなります。皆様方のご自愛をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

取扱金融機関のご案内

三菱UFJ銀行静岡支店
普通 4254072
口座名 つくしの家後援会
(以下同じ)
静岡銀行相良支店
普通 145949
島田掛川信用金庫相良支店
(旧島田信用金庫) 普通 134511
郵便 振替
00820-5-57983
口座名 心身障害児通園施設
つくしの家後援会

しばね

◆つくしの家のあゆみ

五月 ◎沼津魚がし鮎さんのボランティア活動として、子ども達の前で握ってくれたお寿司をみんなでいただきます。とってもおいしかったです。◎つくし東館の屋根の一番上のトタンが強い風で飛んでしまいました。隣の高須板金さんが屋根に登って取り付けて下さいました。

六月 ◎就労支援事業所で働いている卒園児の杉本優弥さんが、お給料で子ども達にお菓子を買って届けて下さいました。◎市内のパチンコ店「パオ牧之原店」様より、今回もお菓子をいただきました。◎園庭の遊具のシーソーの底の部分が錆びて穴があいてしまい職員の智子先生のご主人が溶接して直して下さいました。

七月 ◎初めての花火教室。消防署と市の女性消防隊の皆さんが来て下さって、クイズや花火の持ち方を教えていただきました。◎卒園児の福代優介くんのお宅で今年も七夕のスイカをいただきました。七夕、みんなの願い事が叶いますように。◎市の歯科衛生士さんが来て下さり、虫歯予防のお話と歯磨きの指導をして下さいました。

八月 ◎今年度も美容師の加藤さんがボランティアで来て下さっています。

す。夏、八人のお友達がすつきりカットしていただきました。

九月 ◎今年度は子ども達だけでおたのしみ会をしました。くじ引き、ヨーヨー釣り、的あて、お楽しみバイキング給食、楽しかったですね。◎民生委員の皆さんが園庭の草刈りをして下さいました。

十月 ◎meiji牛乳駿府宅配センター相良店様よりR1、R1ヨーグルトをいただきました。◎島田法人会相良支部の皆さんが窓ふきをして下さり、プレゼントもいただきました。◎読み聞かせグループ「パレット」さんのおはなし会。絵本、紙芝居など楽しかったです。◎つくしホームとの「合同運動会は中止、今回はつくしの家だけで「ちいさな運動会」を行いました。◎コロナ対策として、マスクや消毒剤、体温計などたくさんさんの支援をいただきました。◎民生委員協議会様、相良区様、星いきき社会福祉財団様、市の社会福祉課様、栗山石油様、県の感染症対策チーム様、県社協様、オムロンヘルスケア株式会社様、厚生労働省様、匿名の方々、地域の皆様、たくさんの皆様から支えられていることに感謝です。



◆つくしホームから

5月 ☆沼津魚がし鮎様がお鮎を振舞ってくれました。目の前で握り、ごちそうしていただきました。このような情勢の中でも素敵な機会を提供していただき、心より感謝申し上げます。☆石山智子さんが退園。これからも元気でね。

6月 ☆「せせらぎ」グループは、晴れの日には散歩、雨の日は器具を使いながら体力・筋力維持を行います。「つばめ」グループは花を植えたり季節に応じた作品作りを楽しみながら、2月の販売会に向けて準備をしています。

7月 ☆夏のレクレーションを行いました。本来ならボランティアさん達との夏祭りなのですが、今年利用者さんと職員のみでゲームをやり、その後は盆踊りのかわりにみんなが大好きな「パプリカ」等の曲でダンス。ひと汗かいた後はスイカやお菓子などをみんなで食べました。☆県より消毒液、市内民生・児童委員協議会様、個人の方々、相良区の皆様より手作りマスクや市販のマスクをいただきました。皆様の温かいお心遣いに心より感謝申し上げます。☆古川照美さんがご逝去なさいました。たくさんの思い出をありがとうございます。

8月 ☆毎年7月に来てくださる阿佐ヶ谷教会「地の塩会」の皆様のお訪が、新型コロナウイルス感染症の為に中止となりましたが、かわりにDVD

のビデオレターが届きました。来年こそお会いできることを楽しみにしています。

9月 ☆つくしの家がお楽しみ会で作ったアトラクションを体験させてもらいました。とっても楽しかったです。☆民生委員の皆様が草刈りをして下さいました。おかげで敷地内がとってもきれいになりました。ありがとうございました。

10月 ☆島田法人会相良支部の皆様が窓ふきをして下さいました。☆つくし合同運動会は中止になりましたが、つくしホームでミニ運動会。ゲームをしたり、昼食はファーストフードのハンバーガーセットを注文。たまにはこんなお昼もいいね、とみんなおいしそうに食べていました。来年は合同運動会が出来ますように。☆民生委員さん達との交流会。萩間川まで散歩して、久しぶりの再会にみんな笑顔があふれていました。

編集後記

今年も残りわずかとなり、過ぎゆく時の速さを感じます。コロナに始まり、終わる、そんな1年でしたが、県、牧之原市、同社会福祉協議会、民生委員さん、そして地域の個人・団体の皆様から消毒液やマスクをいただきました。皆さんの温かいお気持ちに触れ、改めて感謝申し上げます。寒くなりますが、皆様どうぞお身体をお過ごしください。